

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	立体駐車場兼金型倉庫	階数	地上3F
建設地	愛知県岡崎市中西伊町字大血田8-	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	15人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2017年5月25日
敷地面積	112,547 m ²	作成者	康昌夫
建築面積	4,994 m ²	確認日	2017年6月1日
延床面積	11,849 m ²	確認者	福留 園美



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 64%
③上記+②以外の 64%
④上記+ 64%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.4

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **55.9%**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

②資源の有効活用

3.1

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.7	0.48			-	3.7
3.1 空間のゆとり		②	1階は階高が14mありゆとりのある空間となっている。 1階は巾40m、長さ約90mの大空間となっている。	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.3	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性		4.0	0.17			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.11			-			
4 通信配線の更新性		3.0	0.11			-			
5 設備機器の更新性		4.0	0.22			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
設備機器は露出配置が多いので更新は容易									
埋設配管としている。									
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー					0.40			-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				2.0	-			-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28			-	3.0
3 設備システムの高効率化			特に無し	5.0	0.43			-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.29			-	3.0
集合住宅以外の評価			実施無し	3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価								-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制								-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			トイレ以外に水を利用する予定は無い	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	-			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.28			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.28			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	構造躯体の鉄骨等は再利用可能	5.0	0.34			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				5.0	0.22			-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料としている。	5.0	1.00			-	
3.2 フロン・ハロンの回避								-	
1 消火剤								-	
2 発泡剤(断熱材等)								-	
3 冷媒								-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	敷地面積の約50%を緑化している	4.4	0.33			-	4.4
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	特に無し	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	
2 振動		独自		3.0	0.50			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40			-	
1 風害の抑制				1.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

立体駐車場兼金型倉庫

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:55.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	1階は金型倉庫、2階3階R階は従業員用駐車場となる複合建築物。動線は1階と他の階で完全に分離している。駐車場は外壁の開口部を大きく確保し開放性を高めている。外観は周辺環境になじむように落ち着いた色調を選択している。外部鉄部には耐候性を考慮しメッキ仕上げを採用した。
Q1 室内環境	外装材に金属製断熱サンドイッチパネルを使用し、断熱性能を向上させている。1階金型倉庫は大型シャッターを設置しているため、外気の流入出が大きくなることから、高速シートシャッターを併用することで室内環境の維持に努めている。
Q2 サービス性能	1階金型倉庫は構内道路面および隣接する工場棟と床レベルを揃え、搬出入が容易になるよう配慮している。安全面を考慮し、上層階の駐車場への車両と利用者の動線は構内道路と分離している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地は約11万㎡あるが敷地境界線付近は山林であり、敷地面積の約50%が緑地となっている。
LR1 エネルギー	1階金型倉庫は自然光で採光を得るためにハイサイドライトを設置した。上層部の駐車階は開口可能な部分を全て開口部としているので、十分な自然換気を得ることができる。
LR2 資源・マテリアル	構造躯体は鉄骨造で、外装材をパネルとしたため、資材毎に分けて解体することが容易にできる。基礎はコンクリート製なので破碎処理となるため分解は容易ではない。設備の配管配線等は污水配管を除く、全部を露出配管としており、改修等が容易にできる。
LR3 敷地外環境	敷地境界線は山林となっており十分な面積の緑を残している。前面道路に接する部分は中木を配置しきちんと維持管理し良好な景観を保持している。
その他	駐車場が高い位置にあるので、近隣にヘッドライトの灯りが届かないようスロープに側壁を設置し目隠しとするなど、近隣に配慮した計画となっている。